

ニホンカモシカ		熊本県カテゴリー
<i>Capricornis crispus</i> (Temminck, 1836)		絶滅危惧ⅠA類 (CR)
	ウシ科	環境省カテゴリー
		地域個体群 (LP)

選定理由 県内局限、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 成熟した広葉樹林や混交林、豊富な餌となる下層植生、急傾斜の岩場を好む

生息状況 1990年代後半から本来の生息地である奥山で減少し、周辺部で見かける機会が多くなった。もともとは九州中央山地を中心に菊池・阿蘇、五木・五家荘、人吉・球磨に分布していたが、近年では阿蘇南外輪や西原村でも目撃情報が出てきており、シカの増加による分散化が進んでいる可能性もある。約25年間に亘るニホンカモシカ調査の結果、生息頭数が減少していることが分かり、九州内で1000頭を切っているものと推定される。



撮影場所：宮崎市フェニックス
自然動物公園

生存への脅威 誤獲、伝染病、その他（他種との競合、ニホンジカ増加による下層植生衰退）

特記事項 ニホンジカに似るが、角が生えかわらないことや枝分かれない点などで異なる。ニホンジカの食害による植生の衰退、くくり罠や防鹿ネットによる錯誤捕獲、疥癬症の伝染など、本種をとりまく環境は極めて厳しい。文化財保護法（特別天然記念物）。多様性条例（指定希少野生動植物）。

※「レッドデータブックくまもと2019」より抜粋
(県ホームページ：<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/52/50813.html>)